
他愛のない日常

櫛方

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

他愛のない日常

【著者名】

櫛方

【あらすじ】

○し、水原麗に訪れた真冬の出会い。

出逢いはバチツと突然に

バチツ

デスクの引き出しを開けようとした時、冬特有のそれはやつて來た。

「うつ」

彼女 水原麗は、思わず声を上げてしまった。

「どうしたんですか?」

隣でパソコンのキーを叩いていた後輩が、手を止めて尋ねる。

「いえ、ちょっと、静電気がね」

「静電気? このオフィスに金属、ありましたっけ?」

「多分、この引き出しの取っ手の部分だと思うわ」

「そう言えば先輩、『静電気防止リング』って、ご存知ですか?」

「知らないわ。なあに、それ?」

「これです。ほら」

彼女は、手首のヘアゴムのような物を見せた。ピンク色でかわいい。「これを付けると、バチツと来なくなるんです。私、これ付けてから一回もバチツとなつてませんよ~」

「ふーん。それどこで売つてるの?」

「百均とかで普通に売つてますよ」

「ありがとう。じゃあ今日買つてみようかしら」

麗は、仕事帰りにオフィス近くの百均に行く事を決めて、仕事に戻つたのだった。

午後7時になつたが、麗はまだオフィスにいた。課長に捕まつてしまい、一人残業をさせられていたのだ。

「書類、できました」

やつと完成した書類を課長のデスクに置き、様子を伺う。課長は、

ふむ、と言つて一通り目を通すと…

「良いだろ、帰つていいぞ」

やつた！奇跡的に文句言われなかつた！

「ありがとうございます！」麗はそう言つと、また課長に捕まつてしまわぬいように、全速力でオフィスを飛び出した。

会社の外へ出ると、途端に刺すような冷氣に襲われた。彼女はブルッと体を震わせ、足早に歩きだした。

一人になつちやつたわね、麗はそう思い溜息をつく。全くあの課長は、席が近いからつて私にばっかり仕事押し付けるんだから…席替えとかしないかしら、小学校みたいに。しないわよね…

そう思いながら、白い息を吐きつつ歩いていたら、うつかり百均を通り過ぎてしまった。そうだ、ここでの「ゴムを買わなくちゃ…」彼女は思い出し、店に入つていた。ゴムは意外と早く見付かつた。多分時期物の商品を扱つてゐるのだろう、一番見やすい位置の売り場にそれはあつた。

彼女は最後の一個だつたレモンイエローのゴムを買って、その場ですぐに手首に付けた。レモンイエローは、彼女によく似合つてゐる。彼女はわざと、ドアの金属部分に指先で触れてみた。あ、バチツと来ない。

彼女は思わず微笑んで、店を後にした。

だが、駅に着いて、何気なく階段の手摺りに手を触れた時、

バチツ

再び來た。

あれ？やつぱりゴムつけてても、バチツと来る事はあるのかしら。

そう思つて何気なく手首を見たら、あるはずの「ゴムはそこになかった。

多分、歩いている間に落として来てしまつたのだ。一瞬探しに行こうかとも思つた。でも、と彼女は思い直す。どうせまた百円で買えるし、それに寒いから…

彼女は諦めて、そのまま帰る事にしたのだった。

駅のホームで電車を待ちながら、溜息をつく。

また買えるとはいえ、麗はちよつと残念だつた。レモンイエローのゴムは、あれ一個しかなかつたので、明日行つてもまたあるか分からなかつたからだ。そんな事を思つていたら。

バチツ

まだ。何かと思ったら、隣の人の手が原因だつたようだ。人にも静電気つて溜まるのね、そう思いながら視線を上げると

バチツ

その男性と目が合つた。次の瞬間、ビリビリと衝撃が走る。二人は、一瞬、その場に立ち尽くした。そして

「あ、あの、よろしかつたら、次の駅でお茶でも…」甘めの声がそう言つた。彼女は心の中でガツツポーズをした。そして、

「ええ、喜んで」

相手をシビレさせる、眩しい笑顔で、そう言つた。

出逢いはバチッと突然に（後書き）

人の手でバチッと来る事つて、意外とあるんですよ～私も何度もあります。

さて、この話ですが、情けない事に、少し長めの話が一本、練つていらないアイディアが一つ用意してあるだけで、その先の予定は全く決まっておりません…

もじらうしゃいましたら

先行き不安な話で

すが、読んで下さってる方ご了承下さい。

お読み下さり、本当にありがとうございました！評価・感想

お待ちしてます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4155d/>

他愛のない日常

2010年10月11日07時59分発行